

令和7年度 横浜緑園高等学校 第3回学校運営協議会 記録

日時：令和8年3月5日（木）

場所：本校 メディア B

司会：副校長

記録：広報・授業研究 G

1 校長挨拶

3月2日の卒業式について、本校は体育館工事中のため、泉公会堂にて行われたが、生徒主役の良い卒業式となった。本日は、学校評価をいただき、今後の学校運営に生かしていきたい。

2 本校の教育活動

(1) 各グループの取組について

○教務グループ

- ・来年度、本校の特色の1つの情報（情報産業と社会）の授業は開講できなかった。
- ・生徒の実態に伴い、制度も変化しているため、それに応じてさまざまな指導を行った。

○広報・授業研究グループ

- ・今年度は、非常に多くの生徒が生徒ボランティアとして積極的に学校説明会や公私合同説明会に取り組み、教員と生徒が一丸となって本校の魅力をアピールできた。
- ・授業研究については、電子黒板の有効な活用と生徒の人権意識を高める授業づくりについて教員同士で情報を共有しながら進めることができた。

○進路・キャリア支援グループ

- ・今年度の進路状況は、公募制での進学が激減し、総合型での進学が増加した。
- ・来年度は21世紀型リーダーシップ教育を導入する。

○生活支援グループ

- ・遅刻指導は、継続的に行ってきた結果、指導対象者が減少している。しかし、年次ごとの対象者数に差があるため、学校全体で遅刻指導者の減少に向けて取り組みたい。
- ・SCの相談件数は増加しており、日頃の丁寧なやり取りの中で生徒の助けをを求める声やSOSをキャッチすることができている。しかし、生徒をケアする教員の人員不足が課題である。人員の確保を強く要求したい。
- ・校内ルールについては、生徒会の生徒と共に検討してきた。そして今年度は、学校全体を巻き込んで寒い時期のジャージの着用に関する再検討を進めることができた。

○生徒活動推進グループ

- ・今年度の部活の加入率は、47.9%であり、アンケート調査によると、生徒の部活動に関する満足度は高かった。
- ・各行事についても、満足していると答えた生徒が非常に多かった。

○総務グループ

- ・今年度は業者によるトイレ清掃の実施、中庭ベンチの追加整備をおこなった。
- ・夏季休業中の部活動交流は、早めに各部活に呼びかけ、参加部活数を増やしたい。

(2) 本校の学校運営についてのご意見等

○教育課程、学習指導

- ・10月の授業見学では、ICT活用が進んでいることについて驚きがあった。一方で、ICT教育を進める上での教員の負担の増加が心配。教員の負担を軽減していくには、デジタル教材やICT教育の成果を蓄積していくべきである。
- ・スタディサプリは、活用の仕方によっては学力の向上が期待できるため、生徒が自主的に取り組むよう働きかけ、有効活用してほしい。
- ・授業では、AIの活用の仕方についても授業で取り組んでいくべき。ただし、その中でも大切なのはリアルな体験であるため、校外学習やOB・OGから進路の話聞くなどの活動を積極的に行うべきだと思う。
- ・ICTは非常に便利であるが、人と人が直接コミュニケーションをとることでは伝わらない熱量や感情があるため、ICTの活用は手段の一つの選択肢として考え、取り入れるべきである。

○生徒指導・支援

- ・文化祭では盗撮等の問題について保護者からのクレームが多かった。警備をつけても取まらないため、外部の人の入場者数を減らすなどの工夫が必要だと思う。また、行事に限らず、通学中の痴漢や盗撮が多く、防犯面を強化したい。
- ・痴漢等の被害については、教員にできることに限りがある。そのため、地域の警察等と連携を取ることが必須となる。
- ・相談内容の多様化・複雑化に伴い、相談体制の在り方については、学校のみならず、県全体で取り組むべきである。
- ・制服の着方などの校内ルールについて、生徒自身が考え、意見をもたせるのはとても素晴らしい取り組みである。

○進路指導・支援

- ・進路については、卒業と進学に向けて考えるのではなく、その先の未来を広く見据えて、生徒自身が自分のキャリアを選択していくよう働きかけていく必要がある。
- ・生徒には、社会の一員になるという使命感を感じさせるべきである。社会や家族、周りの人に貢献していくことの大切さを学びながら、キャリアを選択してほしい。

○地域との協働

- ・学校の地域との強いつながりは、慢性的な教員不足の解消にもつながる。
- ・インクルーシブ教育については、障がい者との共生だけでなく、日本の課題である多文化共生についても積極的に取り組む必要がある。
- ・インクルーシブ教育は非常に素晴らしい取り組みだが、やりっぱなしにならないように、次につなげていくことで意味があるものになっていくため、継続して次につなげる必要がある。

○学校管理，学校運営

- ・学校の広報誌については、保護者向けという印象がある。中学生に向けて、学校生活の中での成長やストーリー、心の変容が分かるようなものが効果的だと思う。
- ・教員の時間外勤務について、減少がみられるという結果になっているが、表面上の減少では意味がないため、持ち帰りの仕事なども含め、教員の時間外勤務が減少してほしい。